

# 会報

NO. 1

日本照明家協議会

## 營業種目

舞台照明機械器具、装置  
テレビスタジオ照明機械器具、装置  
調光変圧器並ニ操作盤  
舞台照明用配電盤  
社交場各種照明器具  
ミラーボール反電飾装置

設計製作



株式会社 電 照 社

東京都渋谷区伊達町63  
大阪出張所  
大阪市西区江戸堀北通1~12

TEL (441) 6782・9042  
TEL (441) 0 4 2 3

三団体代表者のプロフィール

東京・舞台照明家協会

会長・久保田万太郎先生

理事長・小川昇氏



芸術院会員・文芸部長  
日本演劇協会々長  
小説家・劇作家



小川照明研究所主宰

関西照明家協会

名誉会長・白井鉄造先生

会長・岡田猪之介氏



宝塚歌劇団理事  
レビュー脚本家・演出家



読売テレビ放送  
編成局スタジオ部長

中部舞台照明家協会

理事長・柘植貞郎氏



中部日本放送  
テレビ技術部

立 東京・昭和31年10月  
創 関西・昭和32年7月  
中部・昭和32年10月

会長・神谷弘次氏



名古屋市公会堂

日本照明家協議会

発足に当って

日本照明家協議会が昭和三十七年九月一日を期して正式に発足しました。私達はこの私達照明家の当然成るべき、友誼的なつながりと輝やかしい仕事、門出に対して、心からの喜びを感じます。

このことは社会状況及び文化の発展過程からいっても、寧ろ速きに失する位で、今こそ私達は皮肉を以って、その重要性を真剣に考え、文化人としての誇りと信頼を高めなければならないと存じます。

御承知の通りこの協議会の発足は、全国の関西照明家協会、中部舞台照明家協会、舞台照明家協会、以上三団体所属の照明家が「丸」となって、共同の目的に向かって進む第一歩であります。勿論各地の協会は、それぞれの地区状況に即した、独自の活動と発展を続けて行くことと思いますが、この度協議会の結成によって一層の成果が期待される次第であります。

近來照明に対する社会の認識は次第に昂まり、それにもなって照明技術もますます高度のものが、要請されてまいりますので、私達照明家は社会に対する責任を痛感するとともに、この協議会結成を機に二層の努力が必要だと思えます。

この協議会の所掌事項は後述の規約にもある通りですが、差し詰め照明家養成機関設置問題、照明家・学者・業者を交えた照明器具器材の規格統一・略記号制定等の委員会設置、照明家の法的な認定制度実施問題、対外的に認識と理解を深めるための照明PR、等々いくらかでも私達の成すべき仕事と課題は山積しております。

何卒会員の皆さんそれぞれが、自己の場の幸福を築き上げる礎石として、熱意と情熱を結果して、社会的に信用ある立派な団体として、育てて行きたいものと存じます。

日本照明家協議会  
東京代表 小川 昇  
関西代表 岡田 猪之介  
中部代表 神谷 弘次

(事務所)  
第三条 この協議会は事務所を東京都に置く。  
第四条 この協議会が行う事業並に趣旨に賛同する法人又は個人をもつて維持会員とする。

日本照明家協議会規約

(組織等)

第一条 関西照明家協会、中部舞台照明家協会、舞台照明家協会(以下三団体という)相互に共通する諸問題を連絡協議し、必要に於いて協同事業を行う目的をもって日本照明家協議会を組織する。

(経費)  
第五条 一、この協議会の経費は三団体の分担金、維持会費及びその他の収入をもって支弁する。  
二、分担金は会員一名当り二〇円  
三、維持会費は一口月額一〇〇〇円  
四、経費は年に一回三団体に会計報告を行う。  
五、会計年度は九月一日より翌年の八月三十一日に終る。

東京都港区芝田村町三丁目三番地

日本照明家協議会  
電話例 一〇五九

(運営)  
第六条 一、この協議会の運営は幹事をもって行う。  
二、幹事は三団体よりおのおの若干名を推薦する。但し各々一名は会計幹事とする。  
三、運営会議の議長はその都度互選する。  
四、会計幹事は協議会の会計を監査する。

(附則)  
第七条 この協議会は三団体の同意を得て設立する。  
第八条 この協議会は三団体の同意がなければ解散することができない。  
第九条 この協議会が解散したときその財産は、三団体に按分又は同種の団体に寄附するものとする。

# 勉強の仕方に就て

遠山 静雄

会員の中に、会員を教育しなければならぬという声もあり、又一方、会員自ら勉強の機関を設けてほしいという要望も聞いている。もっともな事かと思ふ。何故ならば会員の中には、まだ専門的知識と技術の面で不十分な人達も多勢あり、専門家として活動する上にも、また対外的な信用の上からも当然身につけるべき素養を要求することであるから、それが他動的であろうが自主的であろうがこの点に注目されたことは喜ばしいと思う。

適当な企画がされて、実行されることは望ましい。

近頃一般の時勢として、報酬を要求することに頗る熱心であるが、その見返りとして自己の払う義務に就ては欠けることがないともいへぬ場合がある。つまり自分の力量に対する価値判断を誤る場合がある。英語にギブエンドテイクという言葉があるが、先ず与えるものを与えて、それに相当する報酬を受けねばならない。その意味で自己の力量を向上させ豊富にしなければならぬのである。

こうした当然のことをわきまえて、勉強の機を求めるとは大変結構である。然し、ここに留意すべきことは、すべて他力本願で利益を得ようとする考えは、基本的に間違っているということである。自ら開発する意志がない限り、も

若し舞台照明に対する知識をかん養しようと思えば、他人の力や施設を借りないでも、自分でやり得る。それは読書することである。その道は、いきなり「舞台照明」の著述を求めるから間違うので、電気工学の基礎、照明学の基礎、芸術論に手をつけることからはじめよう。他ない。電気工学の著述を見て判らないところがあれば、更にその基礎になる物理学あるいは数学を勉強し直すことである。外国の文献を見る場合に読めなければ語学の基礎から勉強にとりかかることである。

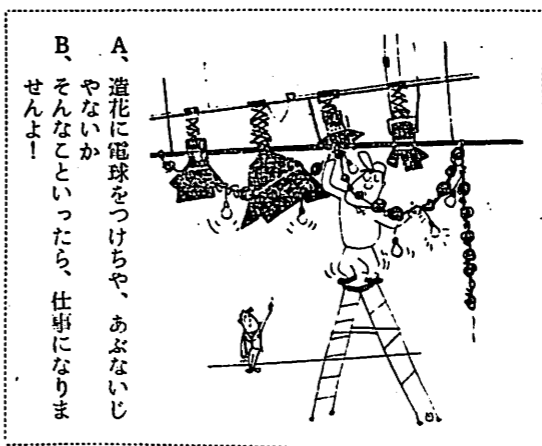
このことは一見大変な廻り道のようにだが、実は最も確実であり、最も近道なのである。ただ人間は元来横着なものだから、それを一般の人は実行しないだけである。

自分のことを例に挙げては恐縮千万であるが、私どもの学校時代にはエレクトロニクスの学問はなかった。だから今になって自分で本を読んで勉強しているのである。語学は英語だけでは間に合わぬ。自分で独習書を読んで勉強している。やればやれるものである。

# 電気工作物規程の条文に就いて

人種に幸福をもたらす電力の利用も、これを導く施設が不備であったり、その使用を誤れば、建造物を焼き、人命に死傷を与えるおそれるべき結果を招き、一変して悪魔と化する代物である。そこでこの電力を伝え導く施設と、利用する機器の設置の仕方やその取り扱いについて、電気理論を過去の

「電気工作物規程」があり、この規程に抵触しないように施設しなければならぬことに定められている。電気工作物規程はその工事方法を示すものではなく、また、その取り扱いを示すものでもない。



A、造花に電球をつけちや、あぶないじゃないか  
B、そんなこといったら、仕事になりませんよ!

のである。ところが条文の区分が難解な点もあるので以下これについて述べる。電気工作物規程の編纂は章、節、条、項、号、イ、ロ、ハの区分に従っている。章、節、条、はそれぞれ明記しているのだから、項については第2項以下には算用数字で記してあるが、第1項とは通常明記してない。一般に第何条の

次から書き出しの本文が第1項に相当すると考えればよい。次に漢字の「一、二、三」で号を表示している。したがって、第何条、2、3、とあれば第2項第3号と解すべきである。規程改正によって新たに追加された条文は、新番号を振り出すことなく、関連する第何条の追記の形式をとって「第何条の2」のように「の」の字を入れて、第何項との区別にしてある。したがって、「第何条2」と「第何条の2」とは当然相違し、「第何条2」はその条文中の第2項を表わし、「第何条の2」の場合は第何条の次に入るべき1か条を表わしている点で異なるので注意すること。

# 大劇の事故を

## 自己の戒めとして

—ふとした心の隙間に災いを招く—

三月三日。桃の節句を祝う日の午前二時半。皮肉にも若い娘さんの踊り子たちが、重軽傷四十三名という、センセーショナルな事故が発生した。

大劇「春の踊」の舞台稽古に於ける、フィナーレ最後の、仕上げ寸前に起きた不幸な出来事であった。

千日前の街角に、夜のしじまを破って時ならぬ救急車・パトカーのサイレンがけたたましく鳴り響いた。我れ先にと駆けつける報道陣、物見高い野次馬の群れで、大劇の楽屋口はごった返した。次々と運び出される、衣装姿の痛ましい踊り子たち。

全くこんな悲劇は二度と繰返したくないと、しみじみ思う。

事故の原因は、ブリッジを吊っている六本のワイヤー捲取りドラムの軸承台（鋼鉄製）が折損したため、ワイヤーが引っぺんにゆるみ、約三十名の踊り子と共に、ブリッジが五米下の舞台まで転落した。何も知らない踊り子は、その上へ後から後からと、穴へ落ちこんだ形で、積み重なったと報ぜられている。

しかし何れの報道を見ても、発生した現象だけをとらえて問題になし、真の原因である、多角面に於ける根底的要素の集積としての、総合的な判断を見落している。

私たちは常に経験している事だが、舞台稽古というものは、文字通り創造に挑む戦争そのものである。

プロデューサー・演出振付 演技者を始め音楽家・美術家・照明家・道具、小道具・衣装等々、それぞれの専門家が各分野に於いて、血眼になって舞台芸術創造に体当りをして、戦いを挑んでいる決戦場である。いかなれば自分の部署を守るのが精一杯で、時としては人が金、金にけつまつたり、ねずみに驚いて尻餅ちついたりしているのを、いちいちかまっている余裕は更々ない。それぞれのパートが、自己の場を完全に守り抜いて、その成果を結果して行くのが、舞台に於ける創造過程の常である。

舞台稽古は決して遊びではない。片時たりとも緊張を欠かせないし、ましてレビューのような転換の早いものは、余程

皆んなが緊張してかからないと、大げなものだが、ごろごろしている。得てしてふとした心のゆるみが、思わぬ災難に見舞われるものである。今度の場合も、そのふとした心のゆるみが、偶然にも重なり合って、このような事故が発生したというのが、真相ではないだろうか。

舞台上に無理はつきもの。こうした習性が馴れ、こにならぬに、私たちの真剣に考えなければならぬ、根本的な問題があるのではないだろうか。

私たちエンジニアの立場から、あの問題の焦点である吊橋の設備を考えた場合、昇降装置は今一応物理的に再検討するとして、それを舞台上に固定する場合には、転換の便も勘案して、自在駒をつけるなり、舞台上にレールを埋め込みスライドシステムにするとかして、アングルで組立てた移動用のタワーを、ブリッジの下に受ける位の、慎重さが欲しかったと考えらる。そうすればワイヤーには全然負荷は

かからないし、タワーは保守用や種々な別の面にも活用出来るし、一挙兩得ではないだろうか。設備というものは、充分

以上に、良い加減なものである。

私たち日本照明家協会の全会員は、大なれ小なれ何等かの形で、この惨事につながる重大な責任を負荷されている。決して他山の石とはいえない。身近かな問題として銘記すべきである。

私たちはこれを貴重な教訓として、一層の良識を以って、あらゆる設備機材の物理的電氣的に、きめ細やかな管理と監視を怠ってはならない。

エンジニアとしての責任と誇りを感じるなら、あらゆる無理に負けてはならないし、妥協は許されぬ限界点のあることを、直視すべきである。それは一歩誤れば人命にも関するし、火災にもつながるからである。

ただここで気をつけなければならない事は、物事を単純に考え、觀念的にそれを行おうとする、種々と無理や弊害を伴なう。ある場合には非協力という形で現われ、又ある場合には敬遠されたり、技術屋は融通がきかなくて困る、ということになりかねない。

斯る点を充分注意して、その時と状況、環境に順応した絵の面き方を心得なければならぬ。

何事も誠意を以って、意のある処を理解して貰えるよう、常々心懸けて、自分本来の使命を果すよう、努力することこそ肝要である。

(YTV 岡田猪之介)

### 照明今昔

林 悌三

芝居の本読みの席上、照明家は演出者に、季節天候時刻などは勿論、演出上の特異な雰囲気の詳細に入って質問したり、打合せたりする。ことほど左様、今日の舞台照明はデリケートなプランと操作が可能である。それらの点は、舞台装置の方でも計算されてはいるが、まことに照明家と言うものは、宇宙の神の如くに、舞台上に気象の魔術と幻想の光線を創り出すことを心得ているようだ。

ところで、以前何かの折に、吉川英治先生に「作家が時代小説を書く場合、いったい当時の夜の暗さ——灯の生活の実態をどれ位に、念頭に浮かべつつ筆を執っているだろうか」といったお話を聞いた事がある。私達はあまりにも光線に恵まれた事がない。昔の芝居はどんな照明で、大勢の観客に舞台を見せていたのであろう。

文献で想像はしても、それを実験してみなければ、本当のことは解らないと思う。

虫干の書架で久し振りに触れた「劇場訓蒙図説」(式亭三馬著、享和三年一八〇三刊)を開いて見ると、第一巻の天紋の頁に、芝居の日月星雲霞雨雪などの仕掛けを絵解きしている。先ず日は「光極めて赤く、中に火を灯したる如く、勿体なくも姫糊の看板の如く」とある。時候柄、夕立のところを見ると、「稲妻はピカリピカリとは光らず、とんだ落着いた物にて、形は赤く貼りずめに現わるる後に、火の燃ゆるようにて、いつまでも光り続ける故、ソリヤ光ったぞと恐るる者一人もなし」、すなわち電光形に切抜いた背景の後ろで火を動かして見せたのであろう。幽霊などは、青い紙で蔽った灯で照らしたのだから、現在のセラチンの透明度の何パーセントもなく、恐らく幻程度にしか見えなかったであろう。もっとも幽霊の効果は満足であったろうが、

——そう考える私達が、昔の人の眼がその程度の照明で、芝居が見られた程、暗さに馴れていた事に思いが至らないのである。

昔と今、あまりにも遠く距ってしまっているが、芝居を見せる方も、見る側も、歌舞伎など古典演劇の生命の糸は、案外その長さにもかかわらず強く続いていることを知らねばならない。昨今、歌舞伎の持つ表現力の特殊性、——歌舞伎の魅力については、照明の上からも検討して、純粋に、正しく鑑賞出来るよう考えねばならないであろう。

(作・演出家)

### 芝居の仕事

白井 鉄造

大晦日賑なり又元旦猶賑なり。これは子規の句だぞうだが、こんな心境も解らないことはないけれども、僕は単純に、そして真面目にお正月になればお目出度うと言う。

一年の計は元日にあり、という言葉通り、元旦は、今年一年の幸せの第一日と思つて、何事も目出度くある様にと折り、一日を無事に過す様心掛ける。

でも、仕事のことでお正月に、一年の抱負を言えるとき、いつもはつきりとした事が言えない。我々の仕事は一つ一つが勝負だから、いつでもその度に新しい覚悟と全力を上げてやっているので、お正月だからと言って、改めて、今年の抱負という様なことを言えないのである。

何の仕事でもそうだけれども、特に芝居の仕事をやっている人は、好きで楽しんでやっている人達許りである。舞台で喝采される俳優は勿論、裏方の人達も皆好きだから舞台を良くするために陰にいて種々と工夫をし、それに楽しみを持っている。

僕もその一人だから、今年も又皆さんと共に、楽しく芝居の仕事をして行きたいということを念じています。

(作・演出家)

### 鉛筆

山崎 幸夫

もとよりこうだから、こうしたいというようなものではない——

拍手のようやおさまった会場からはき出されてきた観客の中の一ひりの男。本人はまだ夢心地を脱しきれず、ぼんやりもさつとして風さいのあがらぬ歩きぶりである。見たところ明治の末期か大正の初めに生れ昭和の戦前にいたことをして楽しみ、銃火をぐぐり抜けてこの頃ではもう若いアベックから視線を外そうともせず若い人達の気持を探索することを忘れない目を持っている。

しかし今の彼の目は違う。今日の公演の第一幕から順を追って舞台のクライマックスのイメージをつづついている。俳優の演技、舞台装置と照明効果、世界有数の〇劇団の来日公演という魅力も大きい、それは観劇し終って成程と思うのである。あの広い客席を超満員にしその全部の観客を感激の渦に自我を忘却させて

しまったあの舞台の持つ力は何んであったのか。

信号が赤になった。彼は立止まる。車の流れも劇場内のイメージを追いつつかの超満員の観客、今日ばかりではない連日のおびただしい観客——それはやはり民衆である。現代の日本の民衆」と彼の思索は迷路へ歩を進める。敗戦を境にして思想風習が激変し老若の年令による思考差だけでなく幾多の異質の人間を作り出し、これらの民衆はおのづから観賞の態度も違つて美醜、善悪、良否の判断すら各自の異つた次元からの視角に立って護らない。戦後十七年、十代の芸能界の活躍はめざましいが他方では否定的であり、戦前派の人々の努力の作品は潮に抗する巨岩の感もあるが無視するものも多し——自然に観客の層は狭くなり多種多様の混乱である。

ふと彼はロマン・ローランの民衆劇場論の一節を思い出す——「演劇は民衆に理解されなければならぬ、民衆に理解されるためには彼等の水準にまで芸術を引き下げねばならぬ」——もともとと独りうなづいたけれど今日の〇劇団のあの超満員の老若男女をうならせた芸術は現代の日本の民衆の高低異質の心の何処をとらえて讚美させたのだろうか。どうもあの言葉通りとは思われない幾つかの疑問がある。この疑問をつかもうとして歩くがこのジャンルは深く暗い。

### 自製の辞典

H・M生

舞台照明にしてそうだが、殊にテレビ照明にあつては瞬間にも等しいつかの間創作である。我々はその短い時間に全力を傾注し、情熱を燃やしている。然しその炎も唯燃やしっぱなしでは、次の仕事へ前進する踏み台となる価値は少い。この点を改め、自分のやった仕事に就いて着想、操作、及び結果等に対する批判を事後こくめに記録し、これを自製の辞典としてより大きく、確実に明日への前進を期したいと考えている。

(YTV)

心眼鏡

八嶋 哲

私は大体職掌柄、眼は到って良く、幼ない頃から視力左右一・二の記録を保持している。ところが最近の傾向として一・五になって来た。健康診断で例のしやもじを片眼にあてて記号を上から大きい順に読んで行くと、下から二番目の蜜みたいな活字迄も正確に読み当てて、看護婦さんをあきれさせる。

常識判断で行けば、年輪が重なれば劣化現象の起まるのは当り前。

ところが世の中には得てして、科学で割り切れない例外があるもの。曾って医師から高血圧の気味があるからと注意を受けたが、酒を呑み始めてから何時の間にか癒って了った。下痢をした時は、ビールを痛飲すると身体の調子が到って爽快になる。逆も又真なりというけれど、何うも私の身体は脚曲りに出来ている。

扱かくくしとかかと、大言壮語してはみたが、寄る年波は争えないもので、この頃名刷の電話番号や新聞記事等、五

センチ位離さないとピントが合わなくなってきた。忍びよる老化現象といえはそれまでだが、これ許りは何んとも防ぎようがない。

遂楽だから読書の時は、老眼鏡を用いることにしたが、それが習性となってデスクに向う時は眼鏡がないと仕事にならない。はずしたり、かけた実り厄介なことだ。

この間偶然電車の中で、例の老眼鏡で新聞を読んでいる、ふと顔を上げたら向い側に腰掛けている、中年のマダムやB G達が、とても奇麗に見えるので驚いて了った。普段は眼が良すぎるので、にきびや蛋の咬いあとやあざが、真ッ先に飛込んで来るが、老眼鏡をかけると遠方は適度のピンぼけになるので、目鼻立ちだけが美しく見え、その他諸々の欠点がベールに包まれるから、眺めていても実に楽しい。

これは一大発見だと思った。私は兼ね兼ね人を眺める場合、その人の美しい面のみを見るように努力しているが、仲々世の中はうまく行かない。

世の中全ての人が、お互に相手の美点のみを尊敬し、信愛し、それを支えとして生きて行けたら、何んなにか楽しい社会であろうと思ふのである。

そこでさっきの老眼鏡だが、心の中にもこんな眼鏡をかけることが出来たら、世の中はもっと楽しいものに、なるのではないだろうか。(照明家)



頭の痛い

照明用語辞典 I O C  
ストリップ・別命板付け。極状の可搬型器具。操にする。追剣ぎ。細長いけれどツブライト・別名サス・スポット。上方から投射する光線。上方漫才師の芸名。異訳・のんだくれ。  
バンク・通常レフ球六灯用の露出型溢光器具。とばくの場鏡。銀行。坂。  
サスペンション・別名チ灯。懸垂型溢光器具。吊り下がり。日和見主義。停止処分。  
フロント・前方(客席側)からのライト。ホテルの受付。表看板。ずうずうしい。  
ハンガー・照明器具の吊り金具。格納庫。すきばら。

特集座談会

舞台照明あれこれ鼎談

小川 庭三郎 昇  
篠木 佐夫

(発言順)

小川 今日舞台照明に関するいろいろな問題を話し合うことなんだけれども、いろんな問題といってもあまり莫然としているから、まあ年の初めでもあつたし、昨年は照明家協会も発足したことで、協会はこれからどんなことをしていかなければならないかというようなこと、それから照明家の現在のいろいろなあり方を再検討して、自分たちは照明家として、どうあるべきか、又舞台照明とはなんであるかということの再認識というようなことから始めて、自己反省もあつたり、将来の希望もあつたり、そんなことを話し合っていたらどうだろうね。

大庭 私はこう思うのです。東京にできてそれから関西にできて、中部にもできてきているのが、舞台照明の仲間というのは普通の職業に対して大へん少い職業なので、これをわれわれがどういうふうにやっていくかということが今後の問題です。この協会ができたというのはいいことだ、それがもとでできたのかというのを、われわれはもう一度よく

考えてみなければいけない年だと思ふのです。協会ができて初めはあかんばから小学校、中学校、高等学校へ行って大学へ行って、初めてやっぱり俺の方向はどううかへいくのさというのをだんだん考え出す年令に、協会もなっているのですから真剣にお互いが考えなければならぬと思ひます。舞台照明というのはいいな、なんだろうということ、社会に訴えたい、舞台照明の本質というものを社会にぶつけていかなければいけない。舞台照明の正しいPRという問題も協会が大いに今後考えなければならぬ問題です。そうしても一つどうしても考えなければならぬことは、社会に対する舞台照明家の信用度だと思ふのです。

対社会的に信用度を増すということ、は、われわれの舞台照明家全体が真剣に考えていかなければならぬことで、その信用度が増せば、今問題になっているギャンランティの問題なんかも、あれだけ信用のある協会の人たちなんだから、これはなんとかさななければならぬ、ということが自然にいわれてくるように思

うのです。ですからその点をよっぽど慎重に、これはもう初めから考えていたといえはそれまでなんですけれども、どうも全体から見ると信用度のレベルがかなり低いように私は思ふのです。だからそれをどうしても尻上りにどんどん上へ上げていかなければ、舞台照明家の社会的な立場というものが非常に低くおかれるのじやないかという感じがして、その点この間うちの交渉中に非常になんか責任を感じて居るのです。

篠木 今大庭さんのおっしゃった信用度の問題、これはどんな仕事をやっていく場合でも一番大事なことでその信用が今高まりつつある時期だと思ふのです。大庭さんのいったように信用のカーブの上昇過程にあるということは事実で、今度の東宝又は松竹との関係でも一応認められて、協会との話もまあ完璧な交渉まではいかなかったけれども、その信用度と仕事の重要性を認められた一つの表われであると思ひます。しかしその信用を得るまでにやっぱ何十年という歴史の中で先輩始め皆さんの努力の結果から

そういう答が出たのだから、その信用をどんなことをしても崩さないようにするには、現在のそれにまた輪をかけていっしょうけんめい骨折って、以て演劇なり舞踊なり、その他の仕事への任務をなほ忠実に果さなければならぬと考えます。そこでこれから先づ照明家協会とか、今度できた協議会が、今までのこの段階のある一つの区切りとして、またより一層の進歩をするための協議会ができたのだから、それをどういう形でやるかはこれからの大きな課題でもあるし務めでもあつた、というふうな思ふのですけれどもね。

大庭 どうですか小川さん、新年に当たって、協会がひとつ今年はどういうふうなやってやろうというふうな、理事長としてのなにか抱負を一つ……  
小川 抱負というよりもむしろ反省ですがね。去年は一年間ギャンランティの問題とかプラン料の問題とかいろいろとに終始してしまつたような気がするのですよ、それも大へん遅々として非常に歯がゆい進行状態だったので、年末押し詰まって、さっき篠木さんがいった



きて不利益になるということはあり得ないのだよ。ちよつと印象としてはなんかそういう感じを受けるのだよ。資格がなければ俺はあしたから仕事ができなくなるのじやないかというよな。

篠木 セクツ的なものをむしろなくすることになるのじやないの。

小川 それになにかそういうものがなければ人を頼むにしても、基準がないでしょう。いろんな賃金をきめるにしても、俯う方してみればずいぶん頼りない問題なんだよ、品物の価値がわからないということだね。僕は関西、中部なんかへいっていろんな話を聞くのだが、関西、中部では非常にそういうことを積極的に推進しなければいけないということを考えているようですね。

篠木 それと平行して、やっぱり照明という仕事は技術がだんだん高まってくればいい仕事ができるということですか、会社勤めの人なんかの定年制ね、こういう問題も今度取り上げて、定年なんてなくしたいものですよ。百になつたて目がしつかりしていてセンター・スポットが上手だったら、これは大へんな給料取るよな、百才にしてセンター・スポットマン、何百万円給料取るということ考えていいわけでしょう。それが何才になつたからだめだとかなんとかというので定年であれするのじやなく、なんかそういうふうにしたいですね。なんか一つの仕事を——この間東宝の女の方、あという人はセンターマンで、なんかいわ

なくてもちやんとやれるということはない。スタッフが注意したり、役者が俺に当ててくれといわなくてもやれるという感覚を持つまでの人、こういう人は大事なわけですからね。だからそれは一生センター・スポットマンになって貰いたいんですよ。ということはなにも自分の仕事を卑下することではないので、たとえば配電盤のディンマー一ついじるにしても、スイッチいじるにしても、自分がいじつたら目をつぶつてもやれるというよな感覚になれば大へんなことですよ。もういい仕事がどんどんできるという一つの前提ですからね。

大庭 それは舞台照明のオペレーターに徹するということですね。これはなかなかできないので、たとえばすぐ課長になつたり係長になつたりすることを望んだりするのはじやなく、ほんとうは認めてやるのならそんな係長部長なんかよりも以上の給料を取ってね。その人でなければできない……。

篠木 会社の中で地位はぐっと上というふうになるというようなことはね、それは会社のいろんな職務規定によって不可能なことかもしれないけれども、まあ望みたいことですね。だけれどもそういうことは照明家協議会というようなところで取り上げていい問題じやないかな。

篠木 とにかくセンター・スポットでとちつたりなんかしたら、これは給料も減るといふような罰則その他もあるよ

にならなやいけないうらうし、その代りよかつたらどんどんよくなるということですよ。

小川 そういうベテランのできていくことは望ましいことだし、そうしなければならぬのだけれども、現在もっと急務なことは、そのベテランになる以前の過程も考えなければならぬ問題じやないかな。スポットの操作にしても、舞台の仕込みのことにしても、この道へ入ってくる人たちが、入って来るまでにその基礎を身につける制度もなく、なんにもそういう機会が与えられないのじやないかね、今のうちに。

大庭 それは今与えられない問題が出たのですが、これはね、基礎を培ってやらなければいけませんね、舞台照明家になる基礎というものをやっぱり培ってや

小川 そうなんです。だからね、去年の正月に今年の希望として僕が述べたことは、なんとかしてそういう人たちが自分の仕事につくまでの基礎というものを、身につける機会を与えなければいけないのじやないか、そういう基礎だけでも与えて、そして現場へ送り込んで仕事ができるというふうなことができないものかということ、去年の初めに考えたのだけれども。

大庭 舞台照明家の養成ですね、協会がそういう問題を取り上げるかどうかということですよ。

小川 その養成機関というか教育機関

というか、そういうものをやりたいう希望を述べただけけれども、去年は実現できなかった。しかしなにかそういうことをしないとイケないと思うな。劇場みたいところへ入社して、その劇場で毎日働いている人たちは先輩に教わる機会もあるでしょう。

しかし、現在非常にたくさんいるいわゆるフリーと称する人たちだね、そういう人たちがなんにも基礎なしで現場へ飛び込んで来て先輩たちは現在の状態ではそういう人たちに教えたりなんかしてある時間がほとんどないのだよ。自分の仕事に追われるのがせいぜいっばいですよ。新しい連中はただおろおろするだけで、たとえ間違つたことをやっていたとしても、それは間違つているぞといってくれる人がないわけなんだ。そうしていつのまにか何カ月かあるいは何年か経つてしまふ、そうするとそういう人たちは今までやって来たことを、それでいいものだと思つて、一人前の照明家になつたよな気がしてくると、これは大へん恐いと思うのだからね。

大庭 劇場にしてもね、劇場に高校出たか大学出たかの人照明ということに入りませうけれども、この人たちも基礎を知らませうよ。やっぱりその劇場の人が基礎を教えてくれるかもしれないが、その機会是非常に少いですよ。だからできれば協会みたいなところが音頭をとつて、そうした基礎を教えるなんか舞台照明家の養成機関をそこにおいて、そ

ことを通つてでなきや劇場の照明課へも勤務できない、できないというよりもその会社が協会の養成所を通じて来ている人をとつてくれれば一番いいですね。

小川 それはそういうものができれば理想だと思うがね。

大庭 だけれども永年、年月はかかってませんか。

篠木 やらなやならぬ。

小川 自分がなんにも知らないことを知らないということが一番こわいことだと思つてますよ。話はほかの例になるけれども、山の遭難の原因が、リーダーが登山の基礎を身につけていないことに依る場合が多い。そのリーダーは自分があるの知らないということを知らないのだということがこの間出ていたがね。

大庭 いやこわいですよ。

篠木 大へんこわい。

小川 まあ舞台照明は命にはかわりはないかもしれないけれども、でもおんなじように大へん恐い。

大庭 今後協会というものがあつて、上、やっぱりそういうものにも責任を持つて、なんかこれからやっておかなければいけないのじやないですか。

小川 たしかにそうだと思つね。古い人たちは永年かかって基礎的知識を身につけて、そして立派な照明家になつていくが、若し現在何年か舞台照明の経験を経験している人たちの間にそういう基礎的知識のない人たちがいると、これから新しく入ってくる人たちはその中何層をま

ねるわけだ。そしてそれでいいものだと思つてしまふ。そうして次にその人たちがまねられる人になつてゆく、それが順ぐりになつていくと舞台照明というものはだんだん低下の一途を辿るのじやないかね。

大庭 それはもうどうしても舞台照明家の養成というものは、今後絶対にこの協会が考えなければならぬ根本的な問題だと私は思つてますよ。

小川 絶対に必要だと思つてますがね、

大庭 実際問題としてそういう機関ができて、そういう機関を通らなければ仕事ができないという段階に到るまでの間、これから舞台照明をやつていこうとする人たちが、まずそういう養成機関へ入ろうという考えを持つかどうかということも大へん問題だと思つてますよ。

大庭 ですから今後はこの協会が発足した一つの目標というものもそこにありますから、たとえば米國でいうユニオンですが、ユニオン形式にはいつかはなると思つてますよ。ほかのところもかなりそういう気運が乗つていっているのに、照明家協会、照明家だけがそういうものに乗り遅れたのじやないか、初めは親睦会あたりから始まつて、だんだんそういう形式になつていこう、今とんとんそういう傾向にあるのですから、だからその一端としてやっぱりさつきお話しになつていたライセンスの問題なんかも、そういうところから出て来ているので、やっぱりそのライセンスの問題なんかが出

てくると、どうしても技術者の養成ということが盛頭してくると思つてますよ。うある長い期間をへて、やっぱりそれを乗り越えてやるだけの協会に忍耐がな

くちやいけないと思つてますよ。

篠木 それはわずかな期間にできる仕事ではありせんがね。

大庭 長く気長にやることです。

篠木 ようやつと今、照明とかなんとかいう。やっぱり三十年の歴史があるの

でね。

大庭 そうです。

篠木 だからやっぱり急ぎ足にしても何年かかかります。でもやらなければいけないですよ、ほんとうに。

小川 何十年かかかつてようやく舞台照明というものが演劇構成の一部門として認められて来た。それをうっかりすると、せつかくそこまで漕ぎつけて来たことが、だんだん元へかえていきやしないかという危惧があるのですよ、それはなにかという、さつきからいろいろお話ししたような舞台照明の技術者の問題がそこへ絡んでくると思つてますよ。だからここでそれを低下させないために、今まで話したような基礎を養成する機関というふうなものをつくることは絶対に必要だと思つてますよ。

大庭 器具の問題についてはわからな

踏みしている気がするのですよ。いつまで経つてもスポットという凸凹レンズがついてくるのですよ。能率が非常に悪くてね、だからあれはステップ・レンズに取り替えるとかいろいろとそういうことを示唆してやる機関をやっぱり協会からメーカーにもこういうふうにするべきだと思つてますよ。少しいいものをみんな協同して、メーカーとの連絡をいろいろやつて頂きたいのですけれどもね、どうでしょう。

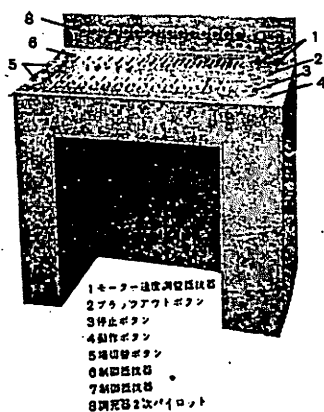
篠木 いろいろそれはそうです、当り前のことですよ。しかしそれは僕ら使う立場でそれを研究または別途な研究部門を作つてやつてくれなければ各人各様いろいろなことをいつて、あのスポットは使いたいけれども俺は使いたくないという意見もそれはあるのですよ、だからね、今方々で市販している丸茂その他で出している品物で全然使いたくないとかこの劇場では使いたくないけれどもあの劇場では使いたくないとかというふうないろいろな機構だとか、それから舞台のいろいろの条件によつて一つのものでも使いたくつかつたり使いたくつかつたりするわけですからね。だからそこところはやっぱり使う人の方の個性でいろいろ使いたくつかつてくるから、だから悪いものは悪いときめなければいけないが、悪いものはどうしたらいいかとか、あれは具合がいいけれどもこの具合が悪いというものは、やっぱり使っている人の意見として取り入れて、それを光学学者なりなんなりが



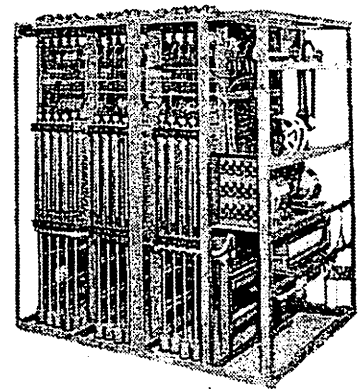
舞台照明に於ける、めくら操作の解消を目的とする

デンシヨウ・M・D

電照社長 小 俣 幸 太 郎



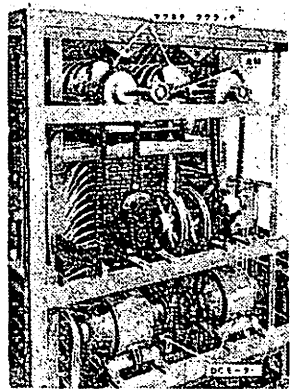
劇場やホールの舞台照明設備の設計に当って必ず問題になるのが照明操作室の位置選定のことです。現実では、多くの劇場やホールの照明操作室は実に不便な位置に置かれ、オペレーターは自分の操作過程が見えないばかりでなく、殆ど舞台を見る機会さえ与えられない状態に置かれている有様です。



第二図 調光器内部

構成(特許出願中)

正逆回転を備えたDCモーター二台(又は四台)に直結された二本(又は四本の)主軸に、縦型調光器の二次コンミテーター一本に対し、二個のマグネチック・クラッチ付ロープホルを取付け、調光器の二次回路電圧と制御電圧の差をブリッジ回路に依り検出し、その微小電圧をDCアンプにて増幅し、高速スイッチング回路に依りマグネチッククラッチの切



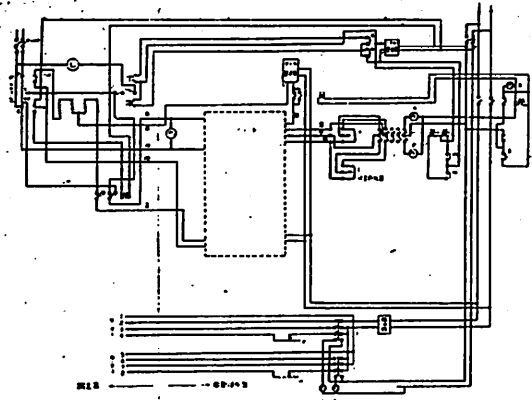
第三図 調光器電動部

デンシヨウ・M・Dの主な利点

- 一、照明操作上の絶対条件である。舞台の見える操作室を作ることが容易になります。操作室の面積が非常に小さくて足りるからその位置の選定に当って従来のような困難な問題が簡単に解決出来ます。
二、調光器の設置場所から遠く離れていても、従来の調光操作盤を直接操作するのと全く同一の操作が舞台の見える位置に座ったままで出来ます。
各個操作、ブロック操作、総合操作それらの電動、手動、スピード調節等すべての操作条件を兼備した完全リモートコントロールシステムであります。
三、調光器に依るプリセットが可能です。

劇場やホールの舞台照明設備の設計に当って必ず問題になるのが照明操作室の位置選定のことです。現実では、多くの劇場やホールの照明操作室は実に不便な位置に置かれ、オペレーターは自分の操作過程が見えないばかりでなく、殆ど舞台を見る機会さえ与えられない状態に置かれている有様です。照明操作設備の設置に相当広いスペースを必要とするのもその位置の選定を困難にする一つの理由だと思えます。若しこれが狭い場所で事足りるものであれば、

四、既設の縦型調光器を活用して操作部分のみの改修も可能です。調光器部分は、多年舞台照明用調光器として実績のある縦型調光器を使用致しますので既設の調光器を活用して操作部分のみをデンシヨウ・M・Dシステムに改修出来ることは操作面の進歩に貢献するところ大であると信じます。



第四図 配線図

- (配線図記号説明)
動作ボタンスイッチ A
パイロット B
停止ボタンスイッチ C
マグネット主幹 D
モータースイッチ E
モーター速度調整抵抗器 F
モーター速度調整抵抗器 G
モーターパイロット H
操作可変抵抗器 I
上側 調光器コンミテーターの本数 J
下側 調光器コンミテーターの本数 K
操作場切替 ボタンスイッチ上側用 L
パイロット上 M
パイロット下 N
瞬時点灯 ボタンスイッチ O
滅灯 P
調光器二次パイロット Q
調光器コンミテーターの本数 (操作法) R
D、E、F、スイッチをONにする
Kの目盛にて各調光器の制御電圧を定める
Mを押しKの回路を造る
G、Hに依りモーター速度を定める
Aボタンを押すとモーター回転調光動作開始
Cを押すと全動作停止

電子発光板

宮本 修

第三の光源、光る壁として数年前より我が国で研究、開発されているELランプ(Electro Luminescent Lamp)が昨日本国でも電子ランプ、又は電子ライト、という商品名で市販されましたので、簡単にELランプの歴史及び、原理、構造、特性について説明を致し皆様方の参考の一助になれば幸いです。

先づ、従来新発光体は、点光源(一般白熱電灯等)線光源(蛍光ランプ、ネオン等)の二つに大別されるが、このELランプは平面状の面光源であります。

ELランプは電流を供給して光を得る事は従来の光源と同じですが、発光体の構造が全然異り、電場発光現象を利用している事である。

Rを押す瞬時滅灯
連続操作の場合は調光終了の時動作停止のCボタンを押さず動作継続のままLの目盛に次の照度を設定Nを押す事に依りLの目盛に定めたる照度に調光されま

ELランプでの電場発光現象とは、発光層(蛍光体と絶縁物の混合物)内部の物理的な均衡をくずした電場発光用蛍光体を使用し、交流電場を作用させ、結晶内で電気エネルギーを直接光のエネルギーに変換させるのである。

この現象は一九二四年頃、或る種の物質に電圧を加える事に依って、その物質が発光する事を発見されていたが、特別に注意される事なく過ぎ、一九三六年に仏人、Dobson が硫化亜鉛蛍光体に於けるEL現象を詳しく研究したものである。然しEL発光板として、具体的な用途をもつものとして注目をあびたのは、米国シルバニア社が、"Panalite"又は、"Panaloseent Lamp"という商品名で市

販された事に始まります。

故にEL発光板の歴史は、約一〇年の年月が経過している。

次に現在最も良く研究され実用化されている型式について説明してゆきたいと思ひます。

基本的な構造はA図及びB図の通りで、構造上、ホーロー型と、有機型の二種類があり、どちらが良いのか定めかねるが、その利点及び欠点を列挙すれば、A、ホーロー型

(イ) 製作が難しいが大産生産が可能である

(ロ) 比較的、初期の明るさが低い

(ハ) 機械的強度が強い

(ニ) 寿命が非常に長い

(ホ) 製作が比較的容易であるが、大量生産が困難である

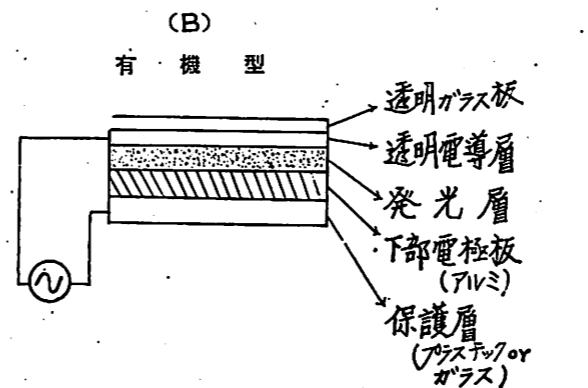
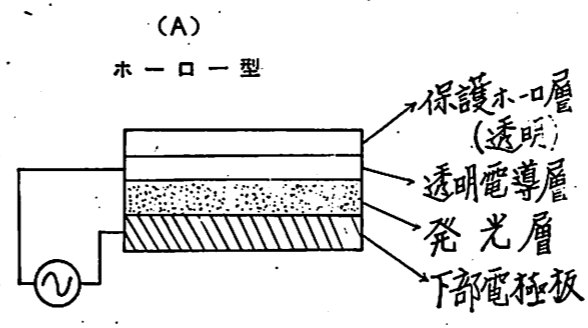
(ヘ) 明るい発光板が得られ易い(特に初期に明るい)

(ニ) 機械的強度に弱い

(イ) 比較的寿命が短い

以上となりますが、これ等の性質は決定的なものではありません。

使用材料、製造方法で種々異なり、その方面で今後も研究されるでしょう。



### 映画スターもユニオンの動き

映画スターといえばこの世の中ではもっとも花やかな存在であり、職業であるが、仕事の上でその人権が守られていないか、という点必ずしもそうではない。▼というので、池部良さんを代表理事とする日本映画協会所属の俳優千二百人が職能別組合(ユニオン)をつくることになった。二十七日の総会には森繁久弥、佐田啓二、高倉健、フランキー堺、香川京子、白川由美、星由里子など三百人が集まってさながらスター・パレード▼これらのスターたちの名前をみただけで、

### 電気工事士試験を受け

私は電気工事が今年から電気工事士法に依って免許制になるということを協会ニュースで知ってから、勉強するようになった。

一日も早くその資格をとって置いて損はないのではないか、後になり、なにか

現在、発売されているELランプの輝度は最も明るい緑色ホーロー型(定格一〇〇V、五〇〜六〇サイクル)で、三、七〜五ラドルクス程度です。

然し電圧又は、周波数を上げる程、輝度は増しますが、実際には寿命を短くするので、矢張り定格で使用するのが無難です。

EL発光板は最初に述べました様に、平面状の発光層から均一に発光しますから、乳白色の窓ガラスを通して来る自然光の様に、やわらかい感じの光、つまりまぶしさのない光が得られますので、余り明るさを必要としない部屋又は場所の壁等に使用すれば、ムードある照明が容易であります。

然し一般室内照明としては、現在では輝度不足で無用ですが、今後非常に明るく安価なるEL発光板が、得られるならば、これを天井や壁等に張り付けて使用すれば、従来の常識を破った素晴らしい照明が思いの儘になり、これぞ夢の光源として脚光を浴び、この地球上より夜を駆逐するのではないのでしょうか。

経済性、実用性を無視すれば、これに近いものが研究用に現在試験製作されている様です。

EL発光板はその構造が簡単で従来の白熱電球や、蛍光ランプ等の様に、ファンはもう花やかなムードを胸にえがくのだが、映画産業の機構からみれば、スターといえども歯車のひとつにすぎない。いわんや、わき役、下役、万年仕出しの連中といったって、会社のごつごつ次第で、どうにでも人権を拘束される▼早い話がスターでござい、といつても、五社間の申し合わせで、専属制の強化といえば聞かぬはよいが、要するにその会社にしぼられていくカゴの鳥みたいなものだし、自分の主演した昔の映画が上映されてもべつに印税みたいなものはないわけでもない▼一応その演技によってスターと認められたからにはもちろん芸術家であるし、極端にいうとその独特な演技、著作権に似た演技権などもあつてよろしい。そういう点になるとわけでも

の形でプラスになる場合があるだろうと思つて、電気工事士試験を受験する機会をひそかに待ち焦れていた。照明の仕事をしていると工事には間接的に関係があつても、直接担当する機会はありませんので、会社に入内している工事屋さんに実地の体験からくる直接の話をきいたりして、それを参考に勉強をした。特に筆記試験はオーム社発行の「電気と工事」を毎日読んでいたので合格する事が出来たと思つたが、実技試験、鑑別試験は、大阪球場内の電気学校で実施された講習会に夜間約二時間づつ九日間通つて学ん

ラメントがなく、また真空にする必要もなく、消耗する部分がないので、非常に長寿命である。

定格電圧、商用周波数使用で有機型、数千時間以上、ホーロー型で初期の輝度が半減する有効寿命は、一〇、〇〇〇時間以上(NEC製)となっています。

消費電力はホーロー型(定格一〇〇V五〇〜六〇サイクル)面積一〇×一〇種で、約二〜三MAで構造上コンデンサーと同じ作用をしますから、流れる電流は進相なり、力率五〇%として消費電力は100×2×3×0.5=100〜150MW=0.1〜0.15Wとなり非常に少ないものです。

又温度に依る輝度変化は、通常使用の場合殆んどありません。

屋外又は高温度の場所での使用は電気製品であるから漏電の危険もあり、又その構造上寿命を縮める結果となりますので、防湿防錆加工をすべきです。

発光色は蛍光体の種類によって決り、現在で、緑、青緑、桃色、橙色があり、一般には緑色が最も多く使われていますが、別に表面に他の蛍光塗料を塗れば違った色も出せます。

又周波数を変えれば、発光色が変わるもあります。

例えば商用周波数で、緑色を発色していたものが、数百サイクルになれば、青色に変色します。但しこの変色の度合は蛍光体の種類、製法に依つて異なり、これが、これも低周波数より高周波で点灯し

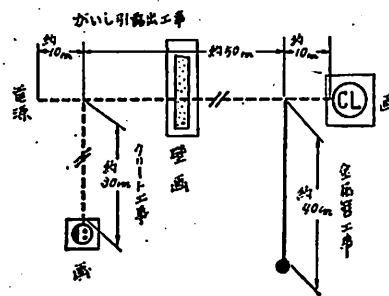
日本の映画会社の人間関係はその作品にものがわかれるように封建的でナニワ節的で、義理人情のクサリで人権をしぼりがちである▼テレビによる打撃は映画産業に、斜陽、の形容詞をかぶせ、俳優のみならず映画人全体が将来への不安をかしくしきれない。大型化という技術革新の前途もどうなるかはつきりした見当もつかない▼社会人として、芸術家としての映画俳優は、こうなるとアワのような人気の雲にのつておどっているはかない存在としか思えない。そこで労働条件から、俳優の権利、会社の専横に対して合理的な解決をつけてゆこうという映画俳優ユニオンの動きは、映画芸術を育てる上からも注目していいと思つた。(大阪より)うり朝刊一月三十一日付より)

だ。(テキストはオーム社発行電気工事士のための屋内工事の実習冬木慶司版上良次共著)私が思うには、やる気があれば努力次第で割合簡単に合格出来るし、私たち照明をやっている以上、必要ではあるまいかと思つた。

尚御参考迄に昭和三十七年度第二回、近畿地方で行われた技能試験の問題を、当局の御譲渡を得て御紹介する。因みに本年度の次期試験は願書受付期間六月一日より一カ月間とのことである。

試験問題は次頁 (YTV)

実技試験



図に示す低圧屋内配線工事を与えられた工具と材料とを使って、30分以内に行ないなさい。

図の説明

がいし引露出工事（ノップ工事）により、壁を貫通し、さらに直付灯を取り付け、これの点滅器を金属管工事により引き下げて取り付けること。  
また、配線の途中から分岐し、クリート工事によりコンセントを取り付けること。

施工上の注意

- (1) 電線の接続は、巻付け接続とし、ハンダあげおよびテープ巻きはしなくてよい。
- (2) ボックス内のスイッチは、電線に接続したままで、ボックスにねじ止めしなくてよい。
- (3) 直付灯およびコンセントへの電線は、その取り付け位置まで出しておくこと。
- (4) 直付灯、コンセントおよび壁は、それぞれ貼紙で示してある。

| 工 具      | 材 料          |                           |    |
|----------|--------------|---------------------------|----|
| パイプ万力    | 1.6mmビニル絶縁電線 | 長さ約1.3mのもの                | 1本 |
| パイプねじ切り器 |              | 長さ約80cmのもの                | 4本 |
| パイプベンダ   | 15mm薄鋼電線管    | 長さ約40cmのもの                | 1本 |
| クリックボール  | 埋込用スイッチボックス  | (1ヶ用)                     | 1個 |
| リーマ      | 埋込用タンブラスイッチ  |                           | 1個 |
| 油差し      | ノップがいし       | (中)                       | 5個 |
| 三目       | クリート         | (2線用)                     | 1組 |
| 甲丸       | 絶縁ブッシング      |                           | 1個 |
|          | ブッシング        |                           | 1個 |
|          | ロックナット       |                           | 1個 |
|          | サドル          |                           | 2個 |
|          | 硬質ビニル細管      | 長さ15cm                    | 3本 |
|          | 木ねじ          | 長さ 4.8mm×56mm (ノップ用)      | 5本 |
|          |              | 長さ 4.5mm×45mm (クリート用)     | 2本 |
|          |              | 長さ 3.5mm×20mm (サドル、ボックス用) | 6本 |
|          | 0.9mmバインド線   | 長さ約3mのもの                  | 1本 |

電灯のキッカケに

ちよつとした工夫

藤川 敏雄

「間」とか「呼吸」とかという言葉があります。もともとは三味線、日本舞踊から来た用語で、それらの進行している拍子をいうらしいがこんにちでは各方面に盛んに使われています。然しこれは時間的にも、数量的にも表現出来るものではなく、むしろ暖昧なものであるが、演劇の上には非常に大事なものであることは皆さんも御承知の通りです。

ろうそくの音はいざ知らず、こんにちでは演劇者の動きや台詞、或いは音楽などと照明とのあいだにもはつきりこの「間」が存在します。「間」の緩急の境目のことを「呼吸」というのですが、照明に携わる者はこの二つに就いてもおろそかに出来ないと思います。小生が劇場にいた最初の頃はまだ調光機を手で操作していました。同じ芝居を同じ役者が演っても、毎日この「間」や「呼吸」は違います。例えば「キッカケ」でF・O・する時その僅かのあいだでさえ、いつも全く同じではないのです。先方が違ってくるのか或いはこちらが違うのか、とにかく

それは判つきりと離れも分るようなものではなく、その気になった人がなんとなく瞬間に感じとるわけで、その「呼吸」を合わそうとしてF・O・する数秒のあいだにもスピードに緩急をつけていました。何台かのオートの操作や、演劇者と同じ気持ちになることにはいろいろ苦心しました。そして「呼吸」のびたりと合った時、それは実にすがすがしい気持ちになれたものです。その後調光回路数も段々と増え、手動では操作しきれなくなって電動に変わり非常に便利にはなりましたが、も早や以前のような味は望めなくなりなりました。

話しは変わりますが、行灯や電灯の点け消しも考えようではなかなか面白味のある操作の一つだと思えます。ひうち石のカチカチに始って附木から灯をつける時、行灯の戸を持ち上げるやいなや、待ってましたとばかり単調に照明をあげるのには、なんの味もない無くてどうも戴けない。最初点けられた小さな炎が、安定した明るさと大きさを持った炎になる迄の、極く短い過程を照明の上に表示するために、矢張り先程の「間」であるとか「呼吸」というもの（或いは芝居心というのかも知れないが）、これを身につけなければ本当には出来ないと思えます。行灯の吹き消しにしても、演劇者の息と照明の変化とがうまく合わなかった時など、瞬間、その劇がガタガタになったように見えます。また電灯の場合、これはろうそくや油と違って瞬時に点滅す

ればよいわけだが、然しそれはそれなりに苦心があるもので、演劇者が直接スイッチを入れるようにするとその音と配電盤で行う点灯とが、どうもずれ勝ちになります。そのために小生がいた劇場では、演劇者に電灯を点ける仕事だけして貰って照明室で電灯とその補助光線を、一緒にキッカケをとるようにしていました。

ところがなにかの時に点灯がおくれたりすると演劇者が思わずスイッチをひねって仕舞うことがある。となるとあとから幾ら回路を生かしても電灯は点かず、それでいて部屋の中は明るい照明になつてどうにも格好がつかない。それとまた別にどうしても自分でスイッチを入れて手応えを感じ、音を出さないと気分が出ないという人もいて、一般の人が見るとなんでもないようなこんな事にも我々は神経をすり減らせているわけです。

ところが先日新歌舞伎座へ劇場中継に行つた際、たまたま電灯の「キッカケ」場面があつてその時のスイッチ音と照明とが実にうまく合うのであとで聞いてみると、これにはちよつとした仕掛けがあつたのです。セードを吊したコードは二芯ではなく三芯になっていて余分の一線は、キーソケットを経てから吊り込まれた器具に結線されていたのです。コードの種類とか容量の点でまだ検討の余地はあるとしても、「キッカケ」のとり難い劇場では有効であると思えます。小生が

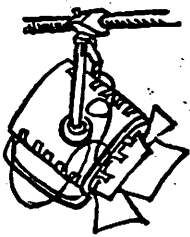
このような方法で早くからある程度解決されていたとは、まさに小生の勉強不足を思い知らされました。

然しそれと同時に思つた事は、もしこの方法が例え小さな記事としてでも協会誌上に発表されたら、或いは小生の他にも頭痛の癒つた人が多少はいたかも知れないということ。またコードや容量の問題もより多くの人達に依つて解決が早められたかも知れません。

一つの新しいものを皆んなが識れば、更らに改良が皆んなで考えられる。同じものを各所各自でばらばらに研究しているよりもお互いにとどしどし発表し合うようになれば、我々の照明界のレベルも飛躍的に向上するのではないのでしょうか。今後協議会々報がこのような一つの場にもなってくれることを心から期待しています。

難づかしく構えずごく平易に、思いついた事を例え数行づつでも書き合えるようになり度いものです。小生もこれをそのような気持ちで書きました。中味は皆さんそれぞれ体験すみの事はかりで何んら新味はありませんが、今大事なことは内容にもまして何にかを呼びかけ、話し合う事だと思っています。

(YTV)



# 照明・あまから・人生 (一)

岡 田 猪 之 介

如何に忙しくても忘念と反省の機会を失ってはならないと、強く自己を戒めていきます。昔からの言葉に、良く働け、良く遊べ、というのがあります。私達は所詮人間である限り、絶えざる緊張の連続では、大脳細胞が犯され、マンネリになり、破綻アイディアは浮びません。そこで必要なのは、全てを忘れてエネルギーを蓄えることであり、第三者の眼を凝って、その立場から自分の仕事を、反省することによってあります。

一歩後退、二歩前進。この心懸けこそ、人生に最も必要なエネルギー源であり、人は信頼出来て、又人からも信頼を得る。これは人生最大の幸福であると同時に、貴重なことです。その反面、人を信頼出来ず、人からも信頼されない者は、淋しい不幸な人だと思えます。

私はこうした日常の心懸けが、直接仕事に結びついていることを、多大なる影響力を持つていられることを、つくづく思うのです。習性と風格と道義、これ等を兼ね備えた人でなければ、単に小手先の器用さ、世渡り上手だけでは、決して立派な照明家たり得ないということを、種々な体験から、しみじみ痛感します。

× × ×

、相当の年季と努力と訓練が必要だといふことになります。

## メガーの読み方

メガーは、どのメガーも等から無限大までの抵抗が測定出来ると思えるのは誤りである。目盛が小さいところは、 $100\Omega$ を測っても、 $1000\Omega$ を測っても、 $10000\Omega$ を測っても、 $100000\Omega$ のものも測っても、 $1000000\Omega$ のものも測っても、 $10000000\Omega$ のものも測っても、メガーには、それぞれ有効測定範囲が定められている。有効測定範囲とは、 $\infty$ の手前の目盛からその千分の一の目盛りまでをいう。いま、 $\infty$ の手前の目盛が $50M\Omega$ であれば、有効測定範囲は $50M\Omega$ から $0.5M\Omega$ までの間である。目盛の単位はメガオーム( $M\Omega$ )で、 $1M\Omega$ は $1000000$ 倍であるから、 $0.1M\Omega$ は $100000$ 倍であり、 $0.01M\Omega$ 以上 $1M\Omega$ 未満はその数を $100000$ の単位で読み、また $0.001M\Omega$ 以上 $0.01M\Omega$ 未満はその数を $10000$ の単位で読む。たとえば、 $0.8M\Omega$ は $800000$ と読む。

休憩。天井浅敷から野次の声。おもだかやあ、パチパチ。………もっと拍手してたもれ。

## 第三の眼

この間大学教授をしている友人が、ふとした事から生れて始めて新劇を観に行き、茶呑みばなしにその時の感想を、渡らしていただきました。暖房の無い寒々としたホールで、翻訳物を演っていたそうです。が、衣裳やかつらはちぐはぐだし、小さなホールで事更にがなりたてるオーパナ演技は、借り物の無尾服みたくて観ていられたもんじやない。そこを待って来て照明を矢鱈に明るくしたり暗くしたり種んな色をかけて、かえって目障りになって困った。何んの必然性があったか、なにいきんでいるのか、何んの必要があったか、照明をあんまり暗くしたり、動かしたりするのかさっぱりわからなかった。あれがや観客にとってお楽しみ処かお苦しみそのものだよ、とつくづく慨嘆して

先輩はそのローワーホリゾンにアムバーを入れるといったのに、私はナマ光線ですり張り通してしまいました。嗚かし先輩はナマな奴と思つたことでしょう。実は白状すると我を張つたのも何んでもなく、当時色の使い方も何んにも知らなかったのです。それからある期間を経て、今度は矢鱈に色を使いたくなりました。

その極端な例が、ある公演に開幕から閉幕まで、遂に一場面としてナマ光線の舞台がなかった事もあります。その時代に、赤色光線を使つたのは煽情的だけれからんといつて、警察に呼出されてお叱りを受けました。今考えてみると実に馬鹿げた事で、若い世代の人達には想像も出来ない事と思ひます。

## 三原色から脱皮

恰度その頃に土方先生や村山先生から、新劇の照明も(君の照明も)そろそろ三原色から脱皮して、もっとバラエティを持つようにと教えられました。今度は又逆に色の使い方が判らなくなり、恐くてもう色を使いこなせませんでした。サビのある光線、チョコレート色の空、こんな事を考え始めたら、つくづく照明が恐くなつて舞台の世界から逃げだしたくなりました。舞台稽古の前夜、たった一人でしんと寝静まった舞台に行き、ゼラチンペーパーのきしむ夜泣きや、奈落から聞える物悲しい猫の鳴声等を聞き乍ら、思い悩んで、研究に夜を明かしたこ

## 空間の法則

それから又、色に疑念を持ち始めました。色とは一体何んだらうか。照明は一体これで良いのだから。ナマの光線で色彩を感じさせるのが、ほんとの照明ではないのだから。

そうして今度はその追究が、関西歌舞伎や展示照明で行なわれました。そうした過程を経て、漸く色を無理に考えるのではなく、素稽古なんか立会って、その場に当ると本能的に頭の中でこれしかないという色彩や角度や明暗やイメージが、連鎖反応的に浮ぶようになりました。考えてみるとこの表現には、スポットの位置は此処、色彩はこれ以外にないという法則と定義がある筈なのです。それが正確に掴める様になる迄には

## 前口上の記

題して照明・あまから・人生。実は「照明恋しやネオンの海も」と、ぐっとムードある表現で行きたかったんですが、今更映画の題名でもなし、良いカッコしても、しよむないで。数多ある候補作品の中から、表記の題名を選んだ次第です。

小説でもなし、随筆でもなし、論文でもなし、日記でもない、よろず万端一式の万華鏡。何かが飛び出るか判りませんが、私も照明修業を志してから、三〇有余年を積みました。

持ぬきで、気取らず、良いカッコしないで、有りのままを気のおもむくまま綴つてみたいのです。

チョーン。ト一丁折入る。東西とうさしい、隅から隅まで、ずうーいっと、何卒なにとぞ、御愛読の程を、乞ひ願ひあげ奉ります。ト最敬礼。綴帳静かに下ります。

## グッドライティン

では照明とは一体何んだらうか、良い照明と悪い照明のポイントは何処にあるのだから。こういう事を、種んな尺度から、あるいは雑談を混えて横道に入つたりしながら、じっくりと考えてみたいと思ひます。

私が今迄直接関係したり、見詰めて来た舞台芸術の中から、良いライティングだと思つたり、実に素晴らしいと感じた作品を想起してみますと、そこには決して偶然とはいえない、緻密な計算の上に立脚した、幾多の要素の集積であることが、共通点として見出されます。その共通した幾多の要素を集約しますと、大體次の五項目にスポットライズされます。

- 一、照明を意圖しない。
- 二、適正な明るさがある。
- 三、渾然一体としている。
- 四、ムードとリズムがある。
- 五、空間処理に無理がない。

## 色彩と夢を追つて

照明入門の初心者、とかく自意識過剰に陥入り勝ちであります。何か大声で照明の場を主張しないと、照明でない様な錯覚にとらわれます。私の場合、色彩光線だけを取り上げて、その経験を御披露すると、始めてプランニングをやった時、シネプレヒコルでありましたが、

# 舞台照明家協会 東宝と協約締結

東京の舞台照明家協会では、昨年以來活発に数度の会合を開き、一般照明設計料並びに、ホール・公会堂等の臨時人件費に就いて、検討を重ね、東宝及び松竹に対し、交渉を行っていたが、漸く東宝と次の如き協約を締結するに到った。松竹とも早晩協約成立の予定。之に依り私運も仕事の確実な責任履行を約した。

## 協約書

甲 舞台照明家協会  
乙 東宝 株式会社

右当事者間に於て乙が経営する劇場に上演する演目の舞台照明設計（以下照明と呼称する）を甲に所属する会員に委嘱する場合は、協約書を交換して誠実にこれを履行することを約する。

第一条 乙が甲に所属する会員に照明を依頼する時は、本協定に基づき所定の照明に関する料金を支払う。

第二条 照明料の支払い基準は、照明設計の内容と劇場ランクとに拠り甲乙事前に協議の上算定する。

第三条 劇場ランクは、い、ろ、は、の

## 覚書

三クラスを設定、いクラスを以て基準劇場とし、その他のクラスに対してはランクに応じて諸料率を次のように減額する。

い 東京宝塚劇場、明治座、新宿コマ劇場、梅田コマ劇場、等（基準）  
ろ 読売ホール、東京、大阪産経ホール、等（い）の八〇%以上）  
は 芸術座、名鉄ホール、その他小劇場（協議）

第四条 照明の基準料金は劇場ランク及び照明設計の内容に依り次の三種とする（税込最低額）

第一項 い劇場の場合（基準劇場）  
一時間 一時間 二時間 二時間以上  
A六万円 八万円 拾万円 協議  
B五万円 六万五千円 八万円 協議  
C四万円 五万円 六万円 協議

第二項 ろ劇場の場合は第一項の八〇%以上とする。

第三項 は劇場の場合は第一項を基準として甲乙協議の上決定する。

但し、乙と雇傭関係のある甲の会員に關しては別に定める。

第五条 前条に規定した料金はすべて一箇月興行の料金とし、原則として十五日以上三十日間（土、日、祭日のマナーを含む）を以て一箇月と見做す。但し、十五日未満の短期興行の場合は協議。臨時マナー及び三十日を超える分は回数により増額を協議算定する。

第六条 再演の場合は当該劇場に於ける初演料金と同額とする。

第七条 料金の支払い期日は原則として初日より五日以内とする。

第八条 既に照明に関する設計を完了した後後に於て、甲の会員の責任に非ざる事由により上演を中止した場合は甲乙協議の上紳士的に善処するものとする。

第九条 甲は甲に所属する会員の氏名を明示し異動を生じた場合は速かに乙に通知する。乙は新たに加入した甲の会員に対しては、甲から通告のあった翌日より本協約を適用するものとする。

第十条 本協約の規定事項以外の問題が生じた場合は、甲乙協議の上誠意を以て解決する。

第十一条 本協約は昭和三十八年一月一日より昭和三十八年十二月三十一日まで有効とする。

第十二条 本協約の期間満了の日の一箇月前までに、甲又は乙から本協約の廃棄について特別の意思表示がなされなかった場合は、期間満了の日の翌日から起算して更に一箇年間その効力を有するものとする。以後の満期の時もまた同様とする。

昭和三十八年一月一日

## 覚書

甲 舞台照明家協会  
乙 東宝株式会社

右当事者間において、舞台照明設計料に関する協約を締結するに当り次の通り協定する。

一、第四条の照明基準料金は昭和三十九年一月一日より次の通り改定する。

一時間 一時間 二時間 二時間以上  
A六万円 九万五千円 拾万円 協議  
B五万円 八万円 拾万円 協議  
C四万円 六万五千円 八万円 協議

昭和三十八年一月一日

甲 東京都千代田区丸の内二ノ六東九号館三号  
舞台照明家協会  
理事長 小川 昇  
専務取締役 菊田敦男

乙 東京都千代田区有楽町一の一四  
東宝株式会社  
専務取締役 菊田敦男

## 日本照明家協議会所属

### 三団体ブロック別正会員名簿

◎は常任理事  
○は理事

|   |                                       |   |   |                           |   |  |
|---|---------------------------------------|---|---|---------------------------|---|--|
| <p>喜多 松太郎<br/>宮本 吉之助<br/>園田 修<br/>上田 治<br/>広瀬 敏男<br/>記村 千代春<br/>土谷 利一<br/>中村 悦治<br/>加藤 清<br/>塚本 一馬<br/>北田 原規<br/>鍋谷 良一<br/>桑谷 武男</p> <p>新歌舞伎座 一四名</p> | <p>白井 鉄造<br/>一六五名<br/>千土地ブロック 三五名</p> | <p>榎畑 兼親<br/>岡本 友秋<br/>岩田 博<br/>牧野 末男<br/>大門 和二郎<br/>波須田 三郎<br/>藤田 和一郎<br/>斎藤 敏<br/>森 清<br/>出原 稔<br/>佐野 富身<br/>野村 昭二<br/>柳 瀬 茂<br/>阪本 昭男<br/>梅村 喜代治<br/>杉山 佳夫</p> <p>大阪劇場 一五名</p> | <p>千日劇場 五名<br/>宮本 修<br/>吉田 可一<br/>武田 光城<br/>中多 正己<br/>福島 時夫</p> | <p>千土地本社 一名<br/>藤江 育久</p> | <p>会館ブロック 三三名<br/>毎日ホール 一〇名<br/>小林 博男<br/>伊藤 政敏<br/>落合 公輝<br/>北尾 敬治<br/>鈴木 啓次<br/>林 進<br/>佐下橋 正典<br/>松村 茂治<br/>江口 裕<br/>古川 豊</p> <p>朝日フエスティバル<br/>ホール 二名<br/>上地 一夫<br/>岡野 匡房<br/>森 史<br/>上地 博<br/>土山 道郎<br/>武内 邦夫</p> | <p>喜多川 信男<br/>波多野 博<br/>石橋 武夫<br/>岡本 俊治</p> <p>サンケイホール 五名<br/>熊沢 章<br/>三上 三治<br/>末光 昭夫<br/>清水 幸三<br/>中地 健一</p> <p>ABCホール 三名<br/>林 澄夫<br/>亀井 政一<br/>高橋 功</p> <p>大手前会館 二名<br/>坂倉 宗太郎<br/>伊藤 政國</p> <p>松坂屋会館 一名<br/>前田 正二</p> <p>日立サールン 一名<br/>中俣 末陽</p> <p>TVブロック 四四名<br/>院長 岡田 猪之介<br/>◎藤川 敏雄<br/>◎岸本 敬二<br/>高田 悦夫<br/>○木本 敏夫</p> |
|---|---------------------------------------|---|---|---------------------------|---|--|

朝日放送TV (ABC) 一〇名  
 ◎加納正良  
 ○角本喜一郎  
 江端明弘  
 弘光治彦  
 前羽俊治  
 西田悦蔵  
 小川哲一  
 佐藤哲一  
 山本圭一  
 藤本圭一

関西TV (KTV) 七名  
 ○中田節三  
 ○榎山実  
 北川忠一  
 井之川一  
 清水秀雄  
 藤巻弘  
 小川智敬

毎日放送TV (MBS) 九名  
 ○大西朝夫  
 ○柿原啓二  
 川島康治

関西アートセンター (K.A.C.) 四名  
 犬伏善明  
 牧村浩三  
 中村浩三  
 奥田淑郎

松竹プロック 九名  
 中座 二名  
 ◎尾崎慶夫  
 藤田正美  
 角座 二名  
 ○山岡景志郎  
 水越薫

浪花座 二名  
 ◎小林豊  
 ○川上秀雄  
 松竹座 一名  
 ◎佐竹啓三郎  
 梅田松竹 一名  
 松倉猛  
 文楽座 一名  
 ◎竹本文蔵

東宝プロック 一八名  
 宝塚大劇場 一〇名  
 小辻 紘  
 ◎北辻芳一  
 ○中路間茂  
 ○久保安太郎  
 赤井和夫  
 柴田辰美  
 吉田秀夫  
 吉岡直彦  
 植田守雄  
 岸本武雄

梅田コマスタジオ 四名  
 ◎高田東作  
 鳥居秀行  
 菅野栄輔  
 武田清

南街会館 三名  
 監査 柳田利一  
 大阪邦男  
 大平伸  
 ○福田允夫

綜合プロック 二六名  
 関西照明設備 一〇名  
 河本得一  
 梅田憲次  
 津島睦夫  
 鹿島俊彦  
 川崎敏夫

小林照明研究所 二名  
 ◎小林敏樹  
 上畑裕俊

岡田照明研究所 四名  
 中尾辰雄  
 河村準造  
 市川亜夫  
 久松昭太郎

篠本照明研究所 (広島) 篠本秀吉 一名  
 大広 二名  
 池谷亮  
 西村義久  
 クラブ・パロン 二名  
 金藤繁人  
 岡野忠雄  
 クラブ・アロー 一名  
 辻田弘  
 フリー 三名  
 ◎玉田実  
 尾西富次  
 村田典之  
 桑谷忠重

松江フリー 一名  
 桑谷忠重

中部舞台照明家協会 七十八名

御園座株式会社 八名  
 浅井五郎  
 加藤立身  
 木村春吉  
 成瀬義朗  
 浜田稔  
 宮田憲一  
 ○森川正信  
 ○安田儀雄

宝生座 一名  
 橋本仙逸

名古屋市公会堂 三名  
 会長 神谷弘次  
 那須正一  
 山田英二

愛知県労働会館 一名  
 小林清忠

舞鶴劇場 一名  
 依田一徳

名古屋市児童館 一名  
 笹崎顕正

京都地区 二〇名

南座 五名  
 監査 保志安雄  
 ◎佐々木秀太郎  
 ○辻井政雄  
 笠井雄輝  
 吉野博

京都會館 八名  
 ○木村嘉次  
 植沢年昭  
 大前治通  
 河村金一  
 河村金一  
 田辺哲一  
 坪井哲夫  
 松浦勉  
 松邨年雄

弥栄會館 一名  
 ◎堀井吾一

先斗町歌舞舞場 二名  
 ○杉江嘉一  
 杉江吉夫

比叡山ホテル 一名  
 ○奥村正次

クラブ・おそめ 二名  
 打田喜八郎  
 川端敏郎

フリー 一名  
 ◎成瀬昇

神戸地区 二二名

聚楽館 三名  
 岩本政雄  
 沢井雄治  
 榎本健一

松竹劇場 二名  
 ◎三宅隆  
 佐伯慶治

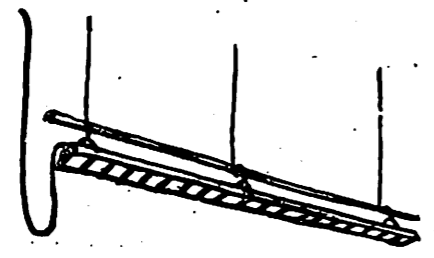
松竹座 三名  
 ◎下平実  
 香川佳照  
 中井悟

神戸東映 一名  
 笹山泰宏

神戸国際會館 八名  
 副会長 奥田春一  
 ◎三前美登志  
 上田善次  
 吉田善次  
 池本八郎  
 神川武博  
 中倉敏博  
 松明

神戸電々會館 二名  
 大沢美樹男  
 吉田隆夫

フリー 二名  
 川崎清一  
 吉川立三



名鉄ホール

小川 六名  
木村 英世  
後藤 文雄  
戸田 允康  
中根 五十雄  
◎成田 金一

中小企業センター

大島 金幸  
◎柴山 矩七朗  
田村 里美

毎日国際サロン

田村 一芳

松坂屋ホール

平野 鴻治郎

愛知県文化講堂

須崎 老  
◎丸田 悦夫

名古屋市中区役所

都築 博

中部日本放送

(C.B.C.) 六名  
安藤 重成

東海テレビ放送(T.H.K.)

伊藤 卓  
鈴木 竹守  
◎馬場 貞夫  
日比野 鎮雄

名古屋中央放送局

小林 二六  
田辺 英範  
多和田 裕  
◎高橋 哲郎

岐阜グランド大映

上村 明博  
◎川崎 頭仁  
後藤 重夫

若尾総合舞台研究所

伊賀 勝己  
加納 康男  
北原 雅子  
◎小西 敏正  
武仲 洋子  
丹羽 克己

舞台照明家協会

二六七名

会長 久保田 万太郎  
名誉会員 上野 虎雄  
" 上条 甲午  
監事 遠山 静雄

松竹ブロック

歌舞伎座 一二名

五十嵐 幸治  
岩淵 御行  
玄葉 栄一  
小島 成夫  
小林 孝一  
瀬良 裕雄  
◎相馬 清恒  
◎高橋 吉正  
滝口 十四郎  
田中 勲  
◎前田 辰夫  
◎前田 二郎

演舞場

九名  
玄葉 裕美  
◎齋藤 政雄  
笹岡 忠夫  
柴山 睦郎  
塚原 清  
豊島 安太郎  
半沢 良雄  
真島 哲郎  
山崎 啄也

松竹会館

長谷川 武雄

国際劇場

相原 誠一郎  
大石 敬一  
岡田 孝  
岡田 利雄  
小川 秀夫  
沖野 貴淑  
金子 清次郎  
神田 治男  
北島 巖  
関 新之助  
田中 実  
深谷 正次郎  
松本 順三  
◎山本 英一  
吉橋 英一

明治座

飯塚 勝美  
大岡 定一  
◎小和 威稔  
◎落合 勝三  
小長井 照司  
近藤 一郎  
◎斎藤 親一  
須具 勝  
富田 修  
成田 好衛

ミカド

伊藤 龍三  
伊藤 忠義  
◎大山 勇  
後藤 友宏  
高尾 三郎  
玉月 秀夫  
村上 一三  
山根 利夫

瀬戸市民会館

◎中条 作次郎

四日市市民ホール

◎門田 襄

浜松市民会館

◎原 光弘  
松浦 雄二

劇団たんぼ

大西 真治

三重県文化会館

◎小林 功

民芸

加藤 隆久  
◎立木 定彦  
原田 新平  
吉田 英雄  
秤屋 和久  
山内 晴雄

小川照研ブロック

一二名

小川照研

大田 弘道  
◎大野 昇  
小川 俊郎  
小林 君子  
中村 直雄  
根本 好章  
竜前 正夫

読売ホール

植草 卓爾

第一生命ホール

◎葛生 輝夫  
山崎 正喜

東京ヴィデオホール

今井 博

松崎照研ブロック

一六名

◎荒木 誠  
泉 筆

NHK-TV

森熊 三名  
高野 敦夫  
古藤 四郎  
岩品 健介  
山下 俊弘  
一名  
土村 晶  
北永 淳三  
春日 正彦  
三名

東京TV

高尾 輝雄  
松崎 康通  
高野 敦夫  
古藤 四郎  
岩品 健介  
山下 俊弘  
一名  
土村 晶  
北永 淳三  
春日 正彦  
三名  
秋本 敬三  
秋本 道男  
浅古 阳太郎  
東 依  
今泉 依  
牛丸 茂  
工藤 次  
佐々木 順  
笹川 健一  
柴谷 幸典  
高津 幸典  
滝尾 輝雄

東京舞台照明

大沼 秀雄  
小倉 隆  
小原 清  
堀田 義昌  
加藤 一夫  
五島 民夫  
佐藤 隆成  
杉浦 利夫  
杉山 茂夫  
塚崎 嘉治  
根本 清  
服部 鉄之輔  
晴山 実  
一七名

文学座

梅田 駿次郎  
樋口 昌弘  
吉川 幸夫  
四名

共立照明

田中 直一郎  
田中 睦  
原 英一  
樋口 正一郎  
前島 幹彦  
前島 良彦  
松本 主税  
松井 啓  
宮尾 益美  
八島 康文  
山崎 数馬  
吉田 豊  
四名

フジテレビ

松川 直弘  
丸岡 寿陽  
山口 功  
山根 定雄  
鹿島 実  
倉貫 泰三  
高城 喜範  
沼田 勝夫  
吉村 元成  
四名

日本教育テレビ

天谷 英夫  
石川 浩久  
高橋 英吉  
中村 哲也  
四名

日本テレビ

青木 久一  
赤司 彰三  
稻葉 栄一  
海老名 幸彦  
加田 直彦  
片桐 隆久  
加藤 郁平  
河合 真久  
関 真久  
相馬 清三  
一七名

スター照明

高部 則博  
長田 光  
萩原 陽男  
橋詰 義親  
和田 光弘  
和 田 弘  
二名

田中照研

池田 正信  
大越 靖雄  
加藤 光治  
田中 恒雄  
富宿 菊生  
五名

今井照研

有馬 裕人  
今井 直次  
岩城 邦猛  
刈屋 珠明  
新川 順吉  
藤野 光明  
星 金次郎  
七名

A.S.G

川崎 ひろし  
小林 文夫  
斎藤 一美  
佐田 一夫  
篠原 佐夫  
杉下 孝一  
田中 利男  
辻本 晴彦  
富沢 真水  
原田 禎男  
柳瀬 和美  
矢野 信吾  
吉本 一郎  
野尻 ひろし  
一名

共立講堂

鈴木 晴雄  
鈴木 勝  
関根 憲一  
平田 尚文  
藤本 幸一  
本田 恭二  
二名

ミカドCLSP

石山 和夫  
岩見 正雄  
木下 富雄  
坂下 幸男  
日比谷 潔  
室本 武  
米津 栄司  
七名

厚生年金会館

加藤 義雄  
古谷 誠一  
別府 正雄  
美月 光  
四名

テアトル電装グループ

井上 延一  
岡井 昭広  
二名

ホール劇場ブロック

青木 繁夫  
榎 洋二  
線 田 栄  
川端 一広  
二八名

東京文化会館

天野 万助  
田村 昭司  
中野 雅充  
伊藤 欽吾  
佐藤 元彦  
榊原 秋男  
阿部 吉之助  
滝 博夫  
二名

草月会館

千代田公会堂  
文京公会堂  
中野公会堂  
日比谷サービス  
二名

三越劇場

岩見 安雄  
榎原 義雄  
石川 鶴市  
中本 猛雄  
片瀬 一郎  
一名

東京劇場

新宿コマ劇場  
松坂ホール  
一名

日生劇場

藤本 久徳  
吉井 澄雄  
三浦 宏之  
浦田 謙二郎  
川村 勝  
鈴木 利一  
関 信  
関口 信  
一一名

新制作座

吉原市民会館  
福島公会堂  
栃木会館  
横浜ピカデリー  
桐生産業文化会館  
木下商事  
一名

静岡公会堂

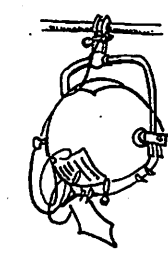
駿府会館  
吉原市民会館  
福島公会堂  
栃木会館  
横浜ピカデリー  
桐生産業文化会館  
木下商事  
一名

花馬車

遠藤 茂美  
一名

フリー

秋山 易三  
石井 尚郎  
磯貝 充宏  
岩崎 令児  
梶 孝三  
一九名



関西照明家協会

●過般、関西演劇美術協会と共催にて、京、阪、神三市に於いて「演劇美術展」を開催、多くの観客を動員し得て成功を納めた。

●第五回理事会（大阪）十二月十二日

照明技士人件費、協議会機関誌及名簿発行に関する件等。

●第六回理事会（大阪）一月十四日

年頭挨拶、照明技士人件費の接渉報告、賛助会員入退会の件。

●第七回理事会（京都）二月十三日

協議会機関誌及名簿の内容に就いて、演劇美術展決算報告、会費納入ルートの設定、事業計画等。

●第八回理事会（神戸）三月八日

協議会運営対策、大劇の事故に鑑み照明家の心構えに就いて。

●会員消息

結婚 二月二十七日

吉田 善次 神戸国際会館

所屬変更 三月十日 ○内は前所属

小林 豊 浪花座（中座）

水越 蕉 角座（中座）

松倉 猛 梅田松竹（中座）

尾崎 慶夫 中座（梅田松竹）

榎本 健一 聚楽館（神戸松竹座）

中井 悟 神戸松竹座（松竹劇場）

中部舞台照明家協会

●例会（名鉄ホール）十二月十三日  
劇団演の会の舞台稽古見学と茶話会。

●理事会（名古屋公会堂）十二月十六日  
規約改正、三十八年度総会開催に関する件、例会に関する件、役員改選案決定、三十七年度会計報告。

●会報発行 第二十七号 一月十五日  
第二十八号 二月十五日

●三十八年度総会開催  
中小企業センター。

●常任理事会（東銀座集会所）十一月六日

短期公演プラン料説明会実施に就いて、協議会の代表幹事の件、新入会員資格審査の件、臨時照明人件費の件。

●協約書締結に関する第四回松竹交渉会（サボイ）十一月二十日

●同じく第二回東宝交渉会（東宝演劇部）十二月三日

●常任理事会（さつまや）十二月六日

●長期公演照明設計に就いて。

●常任理事会（東銀座集会所）十二月十日

東宝、松竹交渉会経過報告。

●東宝と協約締結（三十八年一月一日）

●今井直次 芸術祭奨励賞受賞

●宝塚歌劇団公演「タカラジェンヌ」に栄光あれ」における照明、装置、衣装の成果により。

◇難産の創刊号が、やっと出来ましたおしやべりや話題は、皆さん豊富なのに、どうも筆不精のようです。

◇皆さんの熱意と御協力で、何等かの形で、うるおいと糧をもたらす、照明家独特のムードある機関誌に育てたいものです。

◇たとえ一言一句でも、職場からの声は、仲間間の血液として大きな滋養となります。

◇本誌を御覧になれば、俺こそ書いてやる、という、ファイトが湧くことと思えます。

◇御投稿は、原稿用紙一行一八字詰。

◇枚数に制限とノ切日はありません。何時でも御随時、協議会事務所宛、御投函下さい。

◇特集座談会は小川昇・大庭三郎・篠木佐夫の三氏をレギュラーとして、その都度必要に応じて、ゲストを交え、照明に関するあらゆる問題を解明して頂く計画です。

◇新製品紹介は、時の話題となるようなものを、製造業者の専門技師にお願いして、専門的に解説して頂く予定です。

◇尚照明家ハンドブックの頁として、適切な専門委員会を協議会に設けて、法規編・電気工学編・光学並に色彩編・照明機器編・応用編（舞台照明の実際・TV照明の実際）といった項目別に

◆会員の総合住所録は、別冊手帳形式で出版しますので、取敢ず本誌には、ブロック別名簿を掲載しました。

◆昨年舞台照明の功績により、勲章を授与された。遠山静雄先生・宝塚歌劇の育ての親である白井鉄造先生・歌舞伎鴨川おどり、あしべ踊り等の作並びに演出及び美術等で活躍なさっておられる林梯三先生。

以上御三方の玉稿を頂いたことを、有難く存じます。誌上を以って厚く御礼申し上げます。

◇さて、次のバトンは中部の方々に。

(IIOC)

日本照明家協議会

「会報」NO.1

昭和三十八年四月十五日 発行

価 値 八〇円

編輯人 岡 田 猪之介

発行人 小 川 昇

発行所 日本照明家協議会

東京都港区芝田村町三ノ二三

電話 〇一〇六九

誌 名 を 募 る

あなたに¥3,000を差し上げます！

私たちの総合機関誌。

創刊号を取敢えず

「会報」としましたが……

どうも窮屈です。

もつと座り心地の良い

デラックスなクッションを

グッドアイデアで……

誰れが名付親となるか！

センスとアイデアは

あなたのもの

奮って……

御知恵拝借。

応募規定

◇直感的に芸術照明を表現するもの

◇日本照明家協議会のサブタイトルは入れません。

◇応募は官製はがき、一人で何枚応募しても結構です。

◇住所、氏名、所属、年令をかならず、はがきの表に書くこと。

◇あて先は、協議会事務所宛。

◇応募は所属会員に限ります。

◇締め切り、四月末日。

◇採用者に賞金三千円也、使つて頂きます。

◇解答の発表は、三団体のニュース。

◇第二号より当選誌名を使用します。